

病院と地域をむすぶ



パイプライン



2017年 **1月号**

発行：2017.1.12 総合病院 南生協病院

1
2
月
実
績

一日外来患者数:896.0人 一日入院患者数:275.4人 ベッド稼働率:88.8%
救急車:236台 手術数:120件

女性の健康を守っていきます

産科では、「安全で心温まるお産」をめざし、年間平均380件の分娩に取り組んでいます。両親学級、母親学級、ヨガ教室を充実させ、手術室でも夫立ち会いが可能です。2010年に助産所「はあと」を開設し、正常分娩であれば、産後1日目から「はあと」に移動し家族とともに宿泊もできます。2015年から助産師が妊婦さんを妊娠中から指導し、分娩まで対応する院内助産を開始しました。

婦人科では、「小児～老年期まですべての女性の健康を支援しよう」を目標にしました。婦人科手術は年間68件。思春期外来では体や学校の悩みに対応し、また更年期、子宮脱の治療も行っています。医師・助産師・看護師がチームで一致団結して女性の健康を守っていききたいと思っています。

産婦人科部長 西川直美

母子の力を引き出す院内助産の取り組み

3A病棟 助産師 青山さとみ

南生協病院では2015年より、医師立ち会いの出産に加え、助産師による院内助産を始めました。院内助産とは、リスクの少ない妊婦さんを対象に、助産師が主体となってケアさせていただくシステムです。具体的には、妊娠中の妊婦健診は助産師と医師で分担して行います。助産師は妊婦健診とともに、妊娠中の生活が快適に過ごせるよう支援しています。そして、分娩に向け心と体と環境を整えていきます。分娩は産婦さんの産む力と、赤ちゃんの生まれようとする力で自然分娩を目指します。薬や機械は使いません。助産師が母子の力を引き出しサポートします。

院内助産で出産された方々からは「自分の力で産めた。」「やるだけのことはやった、達成感のある出産ができた。」と嬉しい声をいただいています。そして、私たち助産師のやりがいにつながっています。3年目はさらに多くの方に選ばれる院内助産をめざします

ICT(Infection Control Team)とは？

感染管理認定看護師 小栗生江

ICTとはInfection Control Team＝「感染をコントロールするチーム」の略称で以前は「感染委員会」と呼ばれていました。内科永瀬医師を中心に感染制御認定薬剤師・感染制御認定臨床微生物検査技師・感染管理認定看護師が所属し、病院管理や看護部の協力を得て活動しています。

「適切な感染症治療のサポート」を目標に、感染症の原因菌の検出や検出菌全体の調査を行うことで有効な抗菌薬の選択につなげるための活動を行い、それらを参考に適切な抗菌薬治療が進められているか確認し、必要があれば治療設計のお手伝いもする活動を検査技師や薬剤師を中心に実践しています。また、院内を回り感染対策の実施状況を把握し様々な事例の発生について実践のサポートなどを行っています。

これら以外の活動も多岐にわたり、南生協病院の感染対策がスムーズに確実に行われるようそれぞれの専門性を活かしつつ協力して活動をしています。